



リレートーク #193



4K…百聞は一見に如かず^し

西山 茂樹

スカパーJSATホールディングス
取締役会長

2011年7月に地上波のデジタル化が完了して以来、低迷していた薄型テレビの販売によりやく薄日が差し始めた。9月の薄型テレビの国内出荷台数は、一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）によると、前年同月比114.2%の48万7,000台となり、26カ月ぶりの前年比プラスを記録した。買い替えサイクルが一巡してきたこともあるが、牽引するのはなんとといっても4Kテレビだ。4Kテレビとは、フルハイビジョンの4倍の解像度を持つ高精細テレビのことであるが、アベノミクスによって景気が上向いてきた効果もあるのか、40万円以上もする4Kテレビが業界の予想を超えて売れ始めてきている。

現在、当社は、4K・8K放送、スマートテレビの推進を目指して放送局やメーカー等によって設立された一般社団法人次世代放送推進フォーラムの一員として、世界に先駆けて2014年度に4K放送を行うべく鋭意準備を進めている。

当社では、昨年来、Jリーグの4K収録およびライブ伝送実験を行ったが、次世代放送推進フォーラムの社員各社でもさまざまなコンテンツの4K収録を行っているところである。4K映像が持つ臨場感、豊かな色彩など“百聞は一見に如かず”で、こればかりは実際に見ていただく以外、なかなか活字で感動をお伝えできないのが残念だ。家電量販店等で各メーカーのデモ映像を視聴できるのでぜひご覧いただきたい。

世間では「ハイビジョン画質で十分なのでは？」「3Dの二の舞にならないのか」等、さまざまな意見があるが、現在の4Kテレビの好調な売れ行きは、「大画面のテレビを買うならきれいな画質が見たい」という極めて素朴な理由によるものではないかと思う。4Kテレビは国民全員に買い替えを強いるものでもなく、大きくてきれいな画面で心ゆくまで楽しみたいというお客さま向けの商品であり、放送コンテンツにおいても一定のニーズがあると見ている。来年から始まる4K放送もそういったお客さまの期待にしっかりと応えられるようにしていきたい。